

**第 2 次浜田市総合振興計画（案）**  
**浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）**  
**に対する意見と浜田市の考え方**

**1 第 2 次浜田市総合振興計画（案）について**

No	ご意見の概要	浜田市の考え方
1	<p>基本指標の目標値とされている人口は人口推計に基づき設定されており、人口減による推計値を指標とする限り、後ろ向きの現状維持を是とした計画にしかならない。この推計値は最低確保する方針として、夢のある浜田にするための目標値を設定してほしい。高い目標を掲げなければ死に物狂いの知恵も活力も新しい発想も出てこない。現状を根拠とした計画ではなく、現状を否定した発想の転換を行って頂きたい。</p>	<p>国の研究機関である国立社会保障・人口問題研究所に準拠した推計では、10年後の平成 37（2025）年度に 51,379 人となりますが、本計画ではそれを上回る 52,000 人を基本指標として設定しています。若い世代が少ない現在の人口構造では、当面人口減少は避けられない状況にあり、設定した目標の達成も容易ではなく、高い数値と考えております。</p> <p>人口減少は長い期間で進んだものであり、回復させるには相当の期間を要します。設定した数値目標に対して成果を上積みできるように人口減少問題に全力で取り組んでまいります。</p>
2	<p>人口が減少した段階での浜田市の姿があまり示されていないが、その姿を前提に考えなくてはならないと思う。「給食センター」、「斎場」などが以前から問題となっているが、いまだに解決できていない。また、ゾーニングという手法で配置が考えられているが、基本、市民が毎日行かないような施設は中心部に無くても良いのではないだろうか。「地域」、「個性」という言葉が安易に使用されていないだろうか。各自治区も地域だが、「浜田市」というのももっと広いところから捉えたら一つの「地域」であり「個性」ではないだろうか。その個性を強く打ち出すために、もっと集中が必要と思われる。</p>	<p>公共施設の適正配置は、更なる人口減少や財政状況の悪化が見込まれるなか、喫緊の課題と認識しています。都市機能の集中につきましては、部門別計画「生活基盤部門」の施策大綱「4 充実した都市基盤の整備」（78 頁）で、集約型市街地の形成を掲載していますが、各施設の具体的な扱いについては、現在「浜田市公共施設再配置方針」及び「浜田市公共施設再配置実施計画」を策定中であり、そちらで検討してまいります。</p>
3	<p>生活基盤部門の下水道整備について、既に普及した単独浄化槽は、処理能力が劣ることと生活排水が対象外であることから多くの問題を抱えており、合併浄化槽への切り替えを検討課題とする必要があると思う。なかでも多くの単独浄化槽が使われている中心市街地では、家庭雑排水が浜田</p>	<p>汚水処理については、下水道事業や合併浄化槽設置補助事業等により整備しています。</p> <p>水環境再生の意識を高める取り組みについては、ご意見のあった水質保全活動を含めた具体的な自然環境保全の取り組みについて触れていなかったため、66 頁「2</p>

	川や浜田の海の環境汚染源であることを、再度認識する必要がある。公共下水道頼みではなく、まず身近な水環境の改善運動に着手し、水環境再生の意識を高めることで、下水道事業に発展させたらと考える。そこで、家庭でできる水質浄化活動を官民で進めるため、水環境再生の問題やその取り組みについての記述があるべきと思う。	環境保全と快適な住環境づくりの推進」の基本方針に「水環境の再生や緑の保全、生物多様性の保全」という文言を加え、官民協働での環境保全活動を推進するという内容に修正します。
4-1	人口減少社会は人手不足時代でもあり、既に始まっている。持続可能な社会を実現するためには「元気な高齢者が社会参加し、輝くこと」をもっと強調すべきではないか。	浜田市高齢者福祉計画には、基本目標として「生涯現役のまちづくり」を掲げています。その記述との整合性を図り、記述内容を強調します（46頁）。
4-2	人口減少社会は人手不足時代でもあり、既に始まっている。持続可能な社会を実現するためには「海外技術研修生や留学生などの外国人パワーを引き出すこと」をもっと強調すべきではないか。	企業における人手不足を補う策として、外国人研修生・技術実習生の受け入れは有効であり、市内の企業においても商工団体が中心となって受け入れの拡大が図られています。市としましては、外国人研修生・技術実習生の保護、受け入れ企業・団体を指導・監視する立場から、トラブル等の防止に努めていきたいと考えていますので、強調した記載は行いません。
4-3	人口減少社会は人手不足時代でもあり、既に始まっている。持続可能な社会を実現するためには「IT技術の活用による効率化を図ること」をもっと強調すべきではないか。（国勢調査のインターネット回答も島根県は中国5県で最下位）	IT技術の活用により効率化を図ることは、必須の課題であり時代の趨勢だと考えており、既に様々な業務に取り入れております。 今後も更なる効率化と住民の利便性を考慮して導入を推進していくことは、当然の帰結であると考えておりますので、殊更このことを総合振興計画に明記して強調することは考えておりません。 （IT技術の活用は、目的でなく手段であると認識しております。）
4-4	人口減少社会は人手不足時代でもあり、既に始まっている。持続可能な社会を実現するためには「NPOなどの育成について、記述はあるが、どのようにするか」をもっと強調すべきではないか。	NPOなどの育成は、その活動への支援や行政・住民自治組織等との連携強化、また、定住財団等が行うセミナー・助成制度の紹介などを想定しておりますので、94頁から95頁に具体的な事業を明記する形で対応しております。
5-1	浜田市の基幹産業である漁業の活性化に対して、漁獲量が減少している中、これまでは養殖魚の餌となっていた豆アジ等は、中国等では食材としての価値もうかがわれ、それなりの価格で販売できると思わ	現在でも、養殖魚の餌となっていた豆サバ等を海外輸出している市内業者がおられますし、外国における魚の消費量が増大している中で、販路拡大のためにも、国際貿易港である浜田港の利活用の観点から

	<p>れる。鮮度維持等の問題はあるかもしれないが、輸出方法等を検討し漁業者の販路拡大策として検討出来ないだろうか。</p>	<p>も、海外輸出に取り組むことは重要だと考えています。</p> <p>輸出の対象となる魚種の多くがまき網船の漁獲物であることから、外来まき網船を誘致して水揚高を増やすために、市としても高度衛生管理型荷捌所を整備することにし、陸揚げの方法や受入施設の整備についても検討を始めたところです。</p> <p>輸入国によって衛生管理基準が異なることから、水産関係者や関係機関と相談しながら、海外輸出について検討していきたいと考えています。</p>
5-2	<p>観光振興や地域活性化を図るためにも、今まで以上に、優れた伝統芸能である「石見神楽」を全国に発信しPRする必要があると思う。そのためには、天候・季節に左右されない「神楽殿」の整備が必要であり、観光客を主ターゲットとした週末及び祝日の定期的な神楽上演に加え、浜田市外からの神楽社中も招聘した「神楽共演大会」の開催も必要だと思われる。東京、大阪等の旅行会社と連携した観光旅行パッケージの中に組み込んでもらう事も有効と思う。</p> <p>また、石見神楽振興事業として、舞手の育成はもちろん、衣装、蛇胴、面などの制作事業の後継者育成への支援にも取り組んでいただきたい。</p> <p>合わせて、衣装、蛇胴、面などの制作作業の見学を観光コースへ組み入れるのも一つの方法と考える。2020年東京オリンピック開会式で石見神楽の上演を行うことができれば大きなPRになると思う。石見神楽の歴史の中でも大阪万博での上演により有名になった経緯があり、是非とも要望活動を行っていただきたい。</p>	<p>石見神楽は、当地域が誇る伝統芸能であり、魅力ある観光資源の一つです。石見神楽を観光振興や地域活性化に活かすために、ご提案いただいた「神楽殿」の整備、旅行会社と連携した旅行商品の開発、舞い手や衣装、蛇胴、面などを製作する後継者の育成支援などは重要な着眼点であり、その実現に向け努めてまいります。</p> <p>また、東京オリンピック開会式での石見神楽上演の要望活動につきましては、島根県など関係機関と協議してまいります。</p>
5-3	<p>浜田の基幹産業である漁業、その「魚」に関するイベントがあってもいいのではないだろうか。イベントとしてはBB大鍋があるが、イメージは大鍋がメインであり、具材に魚は使われているものの、魚の祭りというイメージはない。このBB大鍋のイベントに併せて、会場の浜田港で鮮魚等の販売を安価とするような取り組みも</p>	<p>24頁「④販路拡大対策」に各種イベントを開催していく旨記載しております。</p> <p>ご提案のBB大鍋フェスティバルで安価な鮮魚販売の取り組みについては、漁協や浜田魚商協同組合が主体でのイベント参加が不可欠であります。数年前から浜田魚商協同組合が、イカの無料配布やアンコウの吊るし切り実演販売等のイベントを</p>

	必要ではないだろうか。浜田の「魚」の祭りというイメージができ、浜田市以外からの入込客も増加させることによって、もっと浜田の魚をPRできるのではないだろうか。	当日実施しておられますが、今後、さらに充実するよう関係機関に働きかけてまいります。
5-4	島根県立大学生で浜田に就職したいと考える学生は少なくないと思う。しかし、石見地方以外の出身者の場合、ネックになるのは賃貸アパートの家賃等の経費、また、交通手段も自動車がないと不便で、若年層にとっては収入も少なく住みにくい状況である。そういった学生が浜田で就職した場合に、期間を定めて市から補助する制度等も必要ではないだろうか。	<p>頂きましたご意見につきましては、浜田市といたしましても、学生支援の観点からも、また定住促進の観点からも非常に重要な課題と認識しております。</p> <p>現在のところ、総合振興計画に掲載可能な具体的な事業化には至っておりませんが、今後、浜田市が事務局を務めております島根県立大学支援協議会や浜田・江津地区雇用推進協議会とも協力し、制度構築に向けて取り組んでまいります。</p>
5-5	核家族化が進む中、両親、祖父母とも働いている家庭は多く、子どもと高齢者との関わりが希薄になっている。保育所と養護老人ホーム併設の施設があれば、日々子どもたちは昔ながらの遊びや知恵を学ぶことができ、高齢者は子どもたちから元気もらえる。小さな頃からの情操教育は親だけでは難しく、高齢者の力を借りれば「ふるさと郷育」になるのではないだろうか。	<p>今後、浜田市では保育所・高齢者施設の増設が予定されておりますが、すべて民間主体であり、市が主導しての複合施設の設置は困難です。</p> <p>ご指摘のとおり、子どもと高齢者の交流は相互に良い効果が期待されており、各保育所では、世代間交流活動に取り組んでおられます。浜田市としては、計画の修正はいたしません、このような活動を支援しながら、子どもたちが健やかに育ち高齢者がいきいきと暮らせるまちづくりを推進していきますので、ご理解いただきたいと思っております。</p>
6	<p>「浜田のお宝」は色々あるが、「ヨシタケコーヒー」は、3つの基本方針「独自性、実行性」「共感性、持続性」「発展性」に沿っており、一刻も早く飲める場を作って、全国のコーヒー通のために浜田市のPRや観光にも一役かってほしい。</p> <p>また、とても濃いコーヒーなので、お菓子、フルーツ、デザートなど一緒に食べる食材も必要になってくるので、「食」に関してもヨシタケコーヒーに合う食材を開発し、実際にお店を出してほしい。</p>	<p>10月30日に、5つのヨシタケコーヒー認証事業者で構成されたヨシタケコーヒー友の会が発足し、販売が開始されました。市としても、ヨシタケコーヒーの情報発信やPR、人材育成等に取り組むとともに、ヨシタケコーヒー友の会の活動を支援してまいります。</p> <p>食材の開発に関しましては、ヨシタケコーヒー認証事業者からヨシタケコーヒーに合うスイーツ等を提案していただくよう考えております。</p>
7	第3章「前期基本計画」第5節「開かれた行財政運営の推進」主要施策①「健全な財政運営」の主な事業・取り組み「ふるさと寄附の推進」(116頁)について、このみの記述だが、「ふるさと寄附の推進と	「ふるさと寄附」については、主要施策である「健全な財政運営」に向け、自主財源の確保を目的に、その推進を図るといった趣旨で、主な事業・取り組みとして記載されたものであることから、ご指摘の箇所

	<p>運営」にするべきではないだろうか。</p> <p>また、この運営については、現在の使途についてあまり市民に知られることがないが、実際どのように使われているのか、使おうとしているのかについて、市民のニーズを取り入れる考えはないだろうか。クラウドファンディングのような仕組みを利用して、主体的な市民活動を促進する手立ては考えられないだろうか。</p>	<p>にかかる表記については、「自主財源確保に向けたふるさと寄附の推進」に改めます。</p> <p>寄附金の使途については、毎年広報等で周知していますが、より使途が分かりやすいよう、方法について検討してまいります。</p> <p>また、主体的な市民活動を促進する手段として、クラウドファンディングは有効であると認識しています。浜田市内に、アドバイザーも在住されていますので、それも含めて今後市民の皆さんに対し、積極的に周知したいと考えます。</p>
8-1	<p>27 頁：高性能林業機械の導入については、山が痩せていき災害を誘発することがないように、適切な伐採をすすめてほしい。高齢者や女性でも行える自伐林業についても検討してほしい。</p>	<p>高性能機械の導入による森林伐採については、計画的かつ適切な作業地、方法を選択するとともに、伐採後は確実な植栽を行うことで、災害に強く美しい山林に再生してまいります。</p> <p>高齢者や女性でも行える自伐林業については、ご意見を参考に、市が所有する木材搬出用のポータブルウインチの貸出しや安全な伐採方法等の研修会を実施してまいります。</p>
8-2	<p>34 頁：瀬戸ヶ島埋立地活性化が箱モノありきでないようにお願いします。今ある施設や民家を活用して、ソフト面でサービスの質や内容を改善していくこと、合わせて海外からの滞在型観光客のためには、外国語表記だけでなくアテンドする人材や、外国語によるHP等の発信などに力を入れるべきではないだろうか。目標値に海外からの集客やプログラムを設定してはどうか。アジアの安全保障という観点からも友好都市との交流は積極的な目標がほしいところ。</p>	<p>ご意見のとおり、外国人観光客の受入れを図るためには、人材育成や情報発信が必要と考えております。外国人観光客の嗜好やニーズなどを踏まえ、有効な施策を検討してまいります。</p> <p>また、友好都市との交流については、市としての公の交流は中断の状態ではありますが、草の根での交流を続けている民間交流団体もあります。具体的な目標は設定しませんが、引き続き必要な支援を行ってまいります。</p>
8-3	<p>44 頁：児童クラブの環境整備を早急にお願いします。</p>	<p>受け入れ対象年齢の拡充に伴い、定員を超える申し込みが想定される放課後児童クラブについては、順次環境整備を進めていきたいと考えております。</p>
8-4	<p>45 頁：子育て支援センターの移転新築にあたっては、市民協働で検討の場を設けてほしい。また、就学前までに限らず、0～18歳を対象に時間的なすみ分けをしながら、多機能性をもたせてほしい。また、</p>	<p>子育て支援センターの移転新築については、公共施設の再配置計画とも密接に関連しており、園庭の規模等を含め基本的な事項については市で方針決定することになります。しかし、支援者を含め、実際に</p>

	<p>遊びと脳の発達に深いかかわりのある幼児～小学校低学年ぐらいの子どもが遊び込める庭のつくり方について、先進事例から学び、住民の協力を得るなどして、よい庭をつくってほしい。</p>	<p>利用する皆様の利便性が高まり、皆様に喜んで頂けるような施設になるよう 1 年程度の基本設計の期間を取り、利用する皆様の意見を聞きながら、具体的な仕様を決定していきたいと考えております。</p> <p>また、対象年齢については、引き続き妊産婦や就学前の児童とその家族を対象とした事業を中心に推進しますが、次の親になる世代との視点から、小中高生を対象とした事業にも取り組みます。</p> <p>計画の修正はいたしません、ご指摘については今後の施策の参考とさせていただきますのでご理解いただきたいと思います。</p>
8-5	<p>46 頁：生涯現役のまちづくりについて、元気だからボランティアではなく、ボランティアをするから元気という発想が必要。目標値に高齢者のボランティア人口を入れてはいかがか。また、目標値として、企業や行政等で退職前に地域貢献を促す研修を設けるのもよいのではないか。</p>	<p>高齢者のボランティア人口については、浜田市ボランティアセンター(浜田市社会福祉協議会)への登録人数以外は自発性の活動であるため把握できておらず、目標値とするのは困難ですが、ボランティア活動については、高齢者がいきいきと心豊かに生活することができるための有効な取り組みの一つとして考えています。</p>
8-6	<p>50、55 頁：生活困窮者自立支援法に基づく支援はもとより、子どもの貧困に関する支援を、子ども自身のサービスへのアクセスを重視して検討してほしい。スクールソーシャルワーカー、コミュニティソーシャルワーカーの設置状況はいかがか。教育と福祉のすき間を埋め、身近な地域での社会的包摂が進むように人材育成と予算確保をお願いしたい。</p>	<p>子どもの貧困は世代間の連鎖を引き起こす可能性も高く、生活困窮者の支援と併せ取り組みを進めていかなければならないと考えております。</p> <p>浜田市の子育て支援としては、子どもの育ちを第一に考えており、子ども自身が主体的に考え判断する能力を育むとともに、子どもの貧困対策に関する各種サービスにアクセスできるような施策を検討してまいります。</p> <p>スクールソーシャルワーカーの設置状況は、教育委員会に 2 名配置し、支援を要する児童生徒の在籍する学校に必要に応じて派遣しています。不登校や問題行動の子どもに貧困がある場合にも、福祉・子育て・医療などの各種サービスの利用を勧めるほか、自立相談支援機関と連携を図り環境の調整を行うこととしています。</p> <p>昨年度から実施している生活困窮者自立支援事業においては、あんしん相談窓口支援員を配置し、生活全般に対するよろず相談に応じており、コミュニティソーシ</p>

		<p>ャルワーカーに近い役割を果たしております。</p> <p>子どもに対する社会的包摂は、地域福祉・子育て・教育各部門の情報共有が重要と認識しており、庁内はもとより関係団体とも連携を強化しているところです。</p> <p>以上のことから、いただきましたご意見につきましては、計画案の修正まではいたしません。今後の子どもの貧困に対する施策を推進する上で参考にさせていただきますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。</p>
8-7	57 頁：図書館の基本方針について、個人の読書要請に応えるだけでなく社会教育施設としての意図を公民館同様に盛り込んでほしい。	ご指摘いただきました「社会教育施設の側面」を勘案して、基本方針を修正します(57 頁)。
8-8	57 頁：良質なふるさと郷育の学習プログラムや体験プログラムをつくって提供していくため、地域における人材育成や財源を確保してほしい。担い手は学校教職員よりもむしろ地域講師を育てることが効果的であるとする。各校のふるさと郷育における魅力あるプログラムの開発を、地域と学校で連携し、進めてはどうか。	<p>ご意見の前段につきましては、ふるさと郷育を推進する上で、大切なことと認識しております。</p> <p>また、後段につきましては、57 頁〈主要事業・取り組み〉の「ふるさと再発見事業」が、ご意見の内容として取り組んでいるものであります。現在は中学生を対象としたものであり、今後、小学生も視野に入れることを検討します。</p>
8-9	58 頁：市民と共につくる図書館を基本コンセプトにあげているので、図書館における市民による読書推進活動(事業)の目標値をあげてはいかがか。	図書館では、現在「市民一人当たりの年間図書貸出冊数の増加」を市民の読書推進の目標として掲げています。市民による読書推進活動もこの目標に向けた重要な活動の一つと認識していますので、個別の目標の設定はせず、「年間貸出冊数の増加」の目標値に向けた取り組みの一つとして、今後も推進してまいります。
8-10	60 頁：ふるさと郷育とのバランスを踏まえ、子ども(ことに小学生年代)の、スポーツ以外の地域での体験が極端に希薄にならないような配慮を歯止めとして記述してはいかがか。	スポーツ少年団等に対し、交流活動や地域活動等にも、引き続き積極的に取り組んでいただくよう、働きかけてまいります。60 頁は「生涯スポーツの振興」の施策大綱であることから、掲載はいたしません。
8-11	62 頁：各自治区の郷土民俗資料等の保存と施設について、合併はしたが、中央集約的に偏ることなく、それぞれの自治区での取り組みも大事にしてほしい。	市内の各自治区に資料館がありますが、本市としましては、西中国山地文化や海洋文化等の各自治区特有の文化を大事にし、保存、継承できるよう取り組んでまいります。

8-12	<p>68 頁：エコライフ推進隊の会員数を目標値にしているが、行政が元締めとなるボランティア組織は、ともすると、名簿だけ、ということが多くある。今後市民との協働のまちづくりを目指すにあたっては、活動実績などアウトカムを設定してはいいかがか。</p>	<p>ご指摘のとおり、地球温暖化対策やエコライフ推進の目標値として、エコライフ推進隊の活動実績等のアウトカムを設定することは重要であると考えています。</p> <p>しかしながら、エコライフ推進隊は任意団体という位置付けであることや、地球温暖化対策のみならず幅広い環境保全事業を実施していることから、エコライフ推進隊による事業活動を基にした目標設定を記載することは難しいと考えます。</p>
8-13	<p>95 頁：地域コミュニティにおける課題解決に向けてのリーダー育成とあるが、課題解決に向けたノウハウ、情報、先進地事例等その道の専門家はそれぞれのコミュニティにはいない。人材をどのように担保するかが課題であり、自治力をあげていくための支援を行政はする必要がある。浜田市における地域課題解決に向けたシンクタンクの構築とアドバイス事業といったものを施策に入れてほしい。</p>	<p>ご意見の内容につきましては、大変重要な事項であると認識してはいますが、具体的な施策として取り上げるまでの体制が整っておりません。早急に具体策を構築できるよう検討してまいります。</p>
8-14	<p>95 頁：市民活動を効果的に支援する人材が行政のなかに育成されているか疑問。まずその人材育成を目標に入れてほしい。</p>	<p>浜田市の人材育成については、「浜田市人材育成基本方針」に沿って取り組んでいるため、総合振興計画での目標設定は行いません。</p>
8-15	<p>96 頁：シングルペアレント受入事業については、しっかりと自治会や福祉と連携を取って進めてほしい。</p>	<p>事業実施にあたっては、いただいたご意見に配慮して取り組みます。</p>
8-16	<p>資料略とあるが、非核宣言自治体について今後も継続をしてほしい。できれば雲南市のように会員となって宣言文を掲載してはいいかがか。</p>	<p>核兵器廃絶平和都市宣言については、総合振興計画の資料編に掲載する予定としています。</p>



## 2 浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

No	ご意見の概要	浜田市の考え方
1	<p>「浜田の海」は水産業の場だけでなく、物流や人口交流の場でもあり、日本海は外国との開かれたゲートウェイでもある。その未来を予見して研究や活動をしている「水上空港ネットワーク構想研究会」があり、今年 7 月に浜田市で水上飛行機のデモフライトや日本大学の先生による公演を行った。</p> <p>総合戦略（案）の 44 頁に水上飛行機などの誘致を促進することにより云々とあるが、この表現では取り組みの積極さが伝わってこないと心配する。</p> <p>将来、この新交通インフラが日本全国でネットワーク化されれば、観光・交流の推進や企業立地による雇用の推進にも波及効果がある。浜田市がこのチャンス「地方創生の最先端手法」として取り組み、交流人口や物流の先進地になることを期待する。</p>	<p>自然の財産を活用した水上空港構想は、浜田港全体の新たな利活用や展開を図る上で、有効と考えております。</p> <p>ご存知のとおり、浜田港は古くから歴史のある港であり、漁港・貿易港とも地域経済に大きな影響を与えてきました。</p> <p>その中で、今年度、海の日に開催された水上飛行機デモフライトは、新たな取り組みとして、今後の交流人口拡大、新たな雇用など、にぎわい創出に大きな効果があるものと思います。</p> <p>このように民間主導での新たな取り組みは、地域経済、地域創生に大きな影響を与えると考えますので、市としましても、その可能性について調査、研究をすすめてまいります。44 頁の表現の変更までは行いません。</p>
2-1	<p>お金を使って外から人を集めてこようとするのではなく、今住んでいる方々を豊かにするのはいかがか。</p>	<p>U・I ターン者に対する定住支援制度のことを指していると思われませんが、人口減少を抑えるには、転入者を増やす取り組みは必要不可欠です。</p> <p>今住んでいる方々を豊かにする施策については、【基本目標 1】「産業振興と企業立地による雇用の創出」、【基本目標 2】「子どもを安心して産み育てる環境づくり」を中心に、総合戦略全体で記述しています。</p>
2-2	<p>特許などのアイデアを持っている方々を募り、それらを便利グッズなど商品化し、それを市が中心となってウェブサイトや物産展などで売り出したり、企業との橋渡しをするのはいかがか。</p>	<p>浜田市では、特許商品を限定しておりませんが、市内企業の商品を掲載した市民向け情報誌「はまおく」ウェブサイトや、バイヤー向け「しまね浜田の商品リスト」を作成、ウェブサイト運営するなど PR に努めております。さらに、産業振興課において、山陽方面、関東関西方面のスーパー等で浜田フェアを開催するなど、販路拡大支援の一環として、市内企業と一緒に商品売り出しております。</p> <p>また、平成 27 年度は、「元気な浜田情報発信事業」として、浜田市観光協会が運営する市民サロンで取り扱う特産品の通販</p>

		<p>サイト「はまとく」と、市内企業の商品を掲載した市民向け情報誌「はまおく」、浜田市内の飲食店の浜田メニューを紹介する「はまごち」を掲載したサイトを運営し、情報発信する予定です。</p> <p>なお、市内の中小企業向けに特許権等取得事業として、取得費用の半分、上限 5 万円を補助するなど、意欲のある企業の後押しをしております。</p>
3	<p>子育て中の女性の生活目線を活かしたコミュニティ作りでまちを元気にするためには、子育て世代が家庭や子育てとコミュニティ事業とを両立する必要がある、最低限でも人件費の支援があれば立場的に活動しやすくなり、たくさんの意欲のある方がまちづくりの事業を仕事にし、思い切り貢献できるようになる。コミュニティ事業への女性の雇用支援を提案する。</p>	<p>現在、浜田市としましては、地区まちづくり推進委員会等や市民団体が行う活動に対する支援を重点に行っています。</p> <p>その支援については 53 頁から 54 頁において事業を掲載しておりますので、その事業を雇用支援にどうつなげられるか、検討していきたいと考えます。</p>
4	<p>市民一人ひとりが向き合っていくことが重要な課題である。浜田市から日本一と言われるようなものが芽生えると良い。回り道があっても良いと思う。</p>	<p>人口ビジョンの終わりに、「人口減少の厳しい状況を広く周知し、共有して、市民と一体となって真剣に取り組んでいくことが重要」としております。人口減少は長い期間で進んだものであり、回復させるには相当の期間を要します。設定した数値目標に対して成果を上積みできるように人口減少問題に全力で取り組んでまいります。</p>